

東京学芸大の学生やひむか地域振興研究会会員と一緒に、造形を楽しむ北浦小の子どもたち（特別授業）

東京学芸大 鉄矢准教授 デザイン学ぶ学生ら12人



延岡で交流、研修や漁村体験

東京学芸大学（東京都小金井市）の鉄矢悦朗准教授（49）と、同氏の下で空間・立体のデザインや物作りを通じた児童教育などを学んでいる学生たち計12人が、2月28日から3月2日まで研修旅行で延岡市を訪れた。北浦小学校で図工の特別授業を、延岡駅周辺で「商

北浦小で立体遊び授業

北浦小での特別授業は4、5年生（59人）が対象。新聞紙を1枚ずつ丸めて細く長い棒を作り、それを組み合わせて造形を楽しんだ。3本で正三角形。5本まとめて片方を縛り、傘のように広げてから底辺をつなげれば五角すいになる。

来年度から東京学芸大

嶋田百花さん（4年）

一行は、北浦町の浜木綿村を拠点として活動した。

一行は、九保大アドバイザーも務めている読谷山（よみやま）代表（49）が鉄矢准教授と知り合いだったことから、研修の場に延岡を勧めた。

「商店街いいところがし

ては、九保大生地元の子供たちの案内」で駅前幸町サンロード栄町下新大街を歩き、その夜のシンポジウムで発表した。

「高田万十のハムタイがおいしかった。東京では見ないのでびっくりした」「今山八幡宮の石段がいい」「知らない人でもみんながあいさつしてくれる」「アーケードで、子どもたちがカーデゲームをしたり、漫画を読んでいたりする風景がいい」などいろいろ。

「アーケードの長さを生かした遊びを企画してはどうか」「プラモデルを作る鐵治屋さん、情熱的な人材を活用しては

店街いいところがし」を行なうなどして市民と交流。九州保健福祉大学の学生も活動に参加し、大學生同士も交流した。ひむか地域振興研究会（読

谷山洋司代表）主催。

九保大アドバイザーも務めている読谷山（よみやま）代表（49）が鉄矢准教授と知り合いだったことから、研修の場に延岡を勧めた。

「商店街いいところがし」と、にぎわいづくりへのヒントもあった。

一行はこのほか、旭化成見学、九保大と市が連携して行っている子育て支援事業についての研修、島浦での漁村体験な

どを行い、充実した3日間を過ごした。

読谷山さんは延岡市出身で元岡山市副市長。昨年1月に帰郷し、8月に同研究会を立ち上げた。

「これまでに培った人脈を生かして、延岡の交流人口増加に役立ちたい。東京大とも一過性の縁に終わらず継続していく」と話していた。



和服からドレスやバッグを作っている店で、店主から話を聞く学生たち。右から2人目が鉄矢准教授（商店街いいところがし）